

**世界最軽量を実現した超望遠単焦点レンズ 2 機種を発売
新コンセプトで幅広いユーザーに超望遠撮影の楽しさを提供**

キヤノンは「EOS R システム」の核となる交換レンズ「RF レンズ」の新製品として、世界最軽量^{※1}を実現した普及価格帯の超望遠単焦点レンズ“RF600mm F11 IS STM”、“RF800mm F11 IS STM”を 2020 年 7 月下旬に発売します。



RF600mm F11 IS STM



RF800mm F11 IS STM

新製品 2 機種は、超望遠レンズとして世界最軽量のコンパクトなボディと普及価格帯を両立し、これから超望遠撮影に挑戦する幅広いユーザーに新たな撮影の楽しさを提供する新コンセプトの超望遠単焦点レンズです。高い機動性と携帯性を備えることで、野生動物や航空機、スポーツなどの超望遠撮影を楽しむことができます。

■ 焦点距離 600mm、800mm として世界最軽量の超望遠単焦点レンズ

DO レンズ^{※2}や開放 F 値 11 の固定絞り構造、筐体（きょうたい）への樹脂部材の活用により、従来の超望遠レンズの概念を覆す小型・軽量設計を実現しました。“RF600mm F11 IS STM”は質量約 930g、“RF800mm F11 IS STM”は質量約 1,260g と世界最軽量を達成し、高い機動性を実現しています。また、沈胴構造の採用により、持ち運ぶ際にはレンズ本体をコンパクトに収納でき、高い携帯性を備えています。

■ DO レンズを含む新規光学系により高画質を実現

密着 2 層型回折光学素子を用いた DO レンズを含む新規光学系の採用により、望遠レンズに発生しやすい色収差をはじめとする諸収差を抑制し、優れた描画性能と、小型・軽量を両立しています。

■ 快適な撮影をもたらす多彩な機能

手持ち撮影をアシストする手ブレ補正や、リードスクリュウタイプのステッピングモーター（STM）による静止画撮影における高速・高精度 AF^{※3}と動画撮影時における滑らかな AF、露出補正の設定などを任意に割り当てて使用できるコントロールリングなどにより、快適な撮影を実現しています。

製品名	希望小売価格	発売日
RF600mm F11 IS STM	オープン価格	2020 年 7 月下旬
RF800mm F11 IS STM	オープン価格	2020 年 7 月下旬

※1 “RF600mm F11 IS STM”は焦点距離 600mm、“RF800mm F11 IS STM”は焦点距離 800mm を含むレンズ交換式カメラ用オートフォーカス対応の交換レンズとして世界最軽量を実現。2020 年 7 月 8 日現在。（キヤノン調べ）

※2 DO(Diffractive Optical element=回折光学素子)を用いたレンズ。2001 年にカメラ用レンズとして初めてキヤノンが商品化。

※3 本レンズ使用時のカメラの測距可能エリアは、撮像面の横は約 40%、縦は約 60%の範囲。

< “RF600mm F11 IS STM” / “RF800mm F11 IS STM” の主な特長 >

1. 焦点距離 600 mm、800 mm として世界最軽量の超望遠単焦点レンズ

- ・超望遠レンズでありながら、“RF600mm F11 IS STM”は約 930g、“RF800mm F11 IS STM”は約 1,260g と世界最軽量を達成。従来の超望遠レンズ^{※1}と比較し、それぞれ約 70%^{※2}軽量化することで、高い機動性を実現。
- ・1枚でレンズ複数枚分の光学性能を持つ DO レンズの採用により、レンズの枚数を削減し、小型・軽量化を実現。
- ・開放 F 値 11 の固定絞り構造の採用により小型・軽量化を実現。「EOS R システム」のカメラが持つ、各画素が撮像と位相差 AF の両方を兼ねる「デュアルピクセル CMOS AF」や、高精細で視認性の高い電子ビューファインダー（EVF）などにより快適な撮影を実現。
- ・沈胴構造の採用により、持ち運ぶ際にはレンズ本体をコンパクトに収納でき、高い携帯性を実現。“RF600mm F11 IS STM”においては、沈胴時の全長は約 199.5 mm（撮影時全長から約 26%短縮），“RF800mm F11 IS STM”においては、沈胴時の全長は約 281.8mm（撮影時全長から約 20%短縮）。
- ・別売りの「エクステンダー RF1.4×」、「エクステンダー RF2×」（2020年7月下旬発売予定）に対応。「エクステンダー RF2×」を“RF800mm F11 IS STM”に装着することで、焦点距離 1,600mm 相当の超望遠撮影を実現。被写体を大きく引き寄せた迫力ある撮影表現が可能。

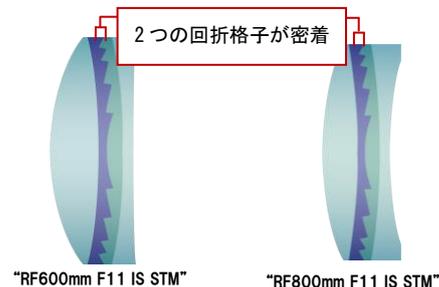
※1 「EF600mm F4L IS III USM」（2018年12月発売）は約 3,050g、「EF800mm F5.6L IS USM」（2008年4月発売）は約 4,500g。
 ※2 “RF600mm F11 IS STM” は約 70%、“RF800mm F11 IS STM” は約 72%軽量化。



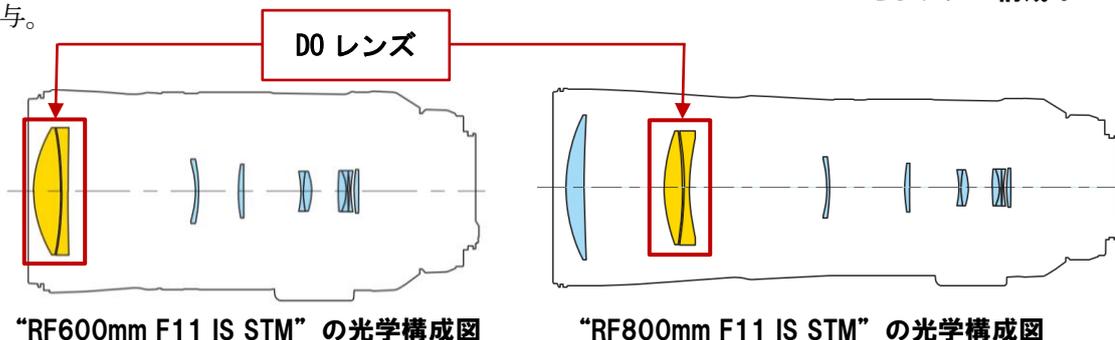
同一焦点距離の超望遠レンズとの質量・全長比較

2. DO レンズを含む新規光学系により高画質を実現

- ・“RF600mm F11 IS STM” は 7 群 10 枚、“RF800mm F11 IS STM” は 8 群 11 枚のレンズ構成。
- ・色収差補正効果と非球面レンズの性質を併せ持つ DO レンズを含む新規光学系により、色収差をはじめとした諸収差を抑制し、優れた描写性能を実現。
- ・DO レンズに用いる密着 2 層型回折光学素子に新規材料を採用し、DO レンズのコストを抑えることで新製品の普及価格帯の実現に寄与。



DO レンズ構成イメージ



“RF600mm F11 IS STM” の光学構成図

“RF800mm F11 IS STM” の光学構成図

3. 快適な撮影をもたらす多彩な機能

- ・手持ち撮影をアシストする手ブレ補正機構を搭載。シャッタースピード換算で“RF600mm F11 IS STM”は5.0段*、“RF800mm F11 IS STM”は4.0段*の手ブレ補正が可能。超望遠撮影で顕著に現れる手ブレを軽減。



手ブレ補正機能 ON/OFF イメージ

- ・リードスクリータイプのステッピングモーター（STM）により、静止画撮影時における高速・高精度な AF と、動画撮影時における被写体の動きに合わせた滑らかな AF が可能。
- ・露出補正の設定などを任意に割り当てて使用できるコントロールリングを採用。直感的かつスピーディーな操作が可能。

※ 「EOS R」(2018年10月発売) 使用時。CIPA 規格に準拠。



コントロールリングの使用イメージ

4. 快適な操作性とシンプルかつ高級感のあるデザイン

- ・レンズの先端には指がかりと革シボ加工を採用し、ホールド性を確保。高級感がありながら、すべりの防止や指紋の汚れ・キズを目立たせないなどフィールドでの気軽な使用が可能。
- ・ピントを細かく調整しやすい幅の広いフォーカスリングと、シルバーがアクセントカラーとなる緻密なアヤメローレットを施したコントロールリングを採用。

<主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。